

くじゅう地区管理運営協議会

令和4年度 活動報告



阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター

目次

I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務	
1. 長者原ビジターセンター利用状況	1
(1) 入館者数	1
(2) ハイビジョン映像上映回数	2
2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業	3
(1) 利用案内・電話対応及び国際化	3
(2) 館内展示および自然ふれあい事業	4
① 常設展示	4
② 企画展示	7
③ 自然ふれあい・解説事業	9
④ 館内維持管理業務	11
3. 来館者アンケート結果	12
II. 教育・普及啓発活動	
1. 普及啓発活動	15
(1) 遭難事故防止・登山マナー向上活動	15
(2) 広報活動	16
2. 環境教育活動	23
III. 自然環境保全・調査活動	
1. 自然環境保全活動	25
2. 調査活動	27
IV. 登山道等管理活動	
1. 登山道保全活動	28
2. 長者原周辺の美化清掃活動	31
V. その他	
1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度	32
2. 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置	33
3. 職員研修実績	33
4. 新聞掲載記事	35
5. 地域の概要	36
6. 運営体制	37

I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務

1. 長者原ビジターセンター利用状況

(1) 入館者数

- ・令和4年度の来館者数は、121,707人であった（前年度比：約3%増）。
- ・入館者数は新型コロナウイルス感染症の影響から回復がみられ、コロナ前の令和元年度の水準に戻りつつある。第1四半期は5月の入館者数が昨年度比約66%増と大幅に増加し、令和元年度の水準に戻った。第2四半期は7月の入館者数が昨年度比約30%減、9月は大型で非常に強い台風14号の影響により昨年度比約25%減となったが、この時期の昨年度の入館者数が突出していたので、令和元年度の水準とほぼ変わらなかった。第3四半期及び第4四半期もほぼ平年並みの入館者数であった。

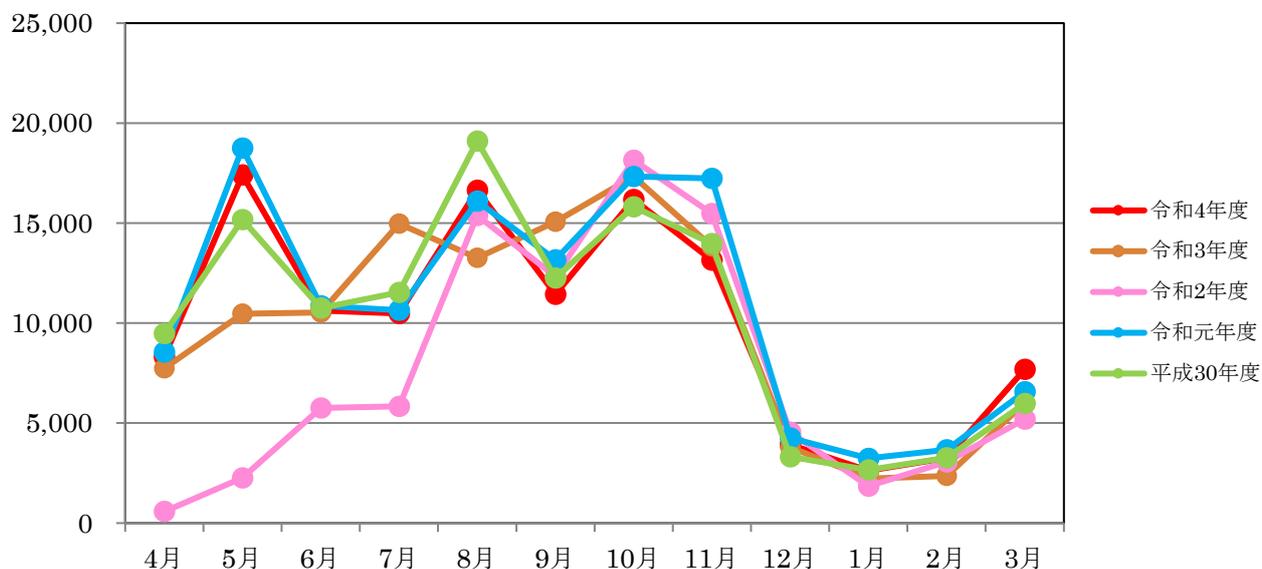


館内利用の様子

来館者数一覧表（平成30年度～令和4年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和4年度	8,305	17,404	10,625	10,484	16,646	11,441	16,185	13,148	3,915	2,621	3,244	7,689	121,707
令和3年度	7,730	10,474	10,532	14,969	13,256	15,065	17,333	13,841	3,797	2,227	2,354	6,006	117,584
令和2年度	578	2,269	5,750	5,830	15,381	12,331	18,153	15,475	4,537	1,853	3,060	5,206	90,423
令和元年度	8,551	18,756	10,873	10,641	16,102	13,161	17,324	17,234	4,263	3,239	3,671	6,574	130,389
平成30年度	9,482	15,179	10,759	11,536	19,103	12,252	15,820	13,986	3,315	2,657	3,262	5,986	123,337

来館者数推移（平成30年度～令和4年度）



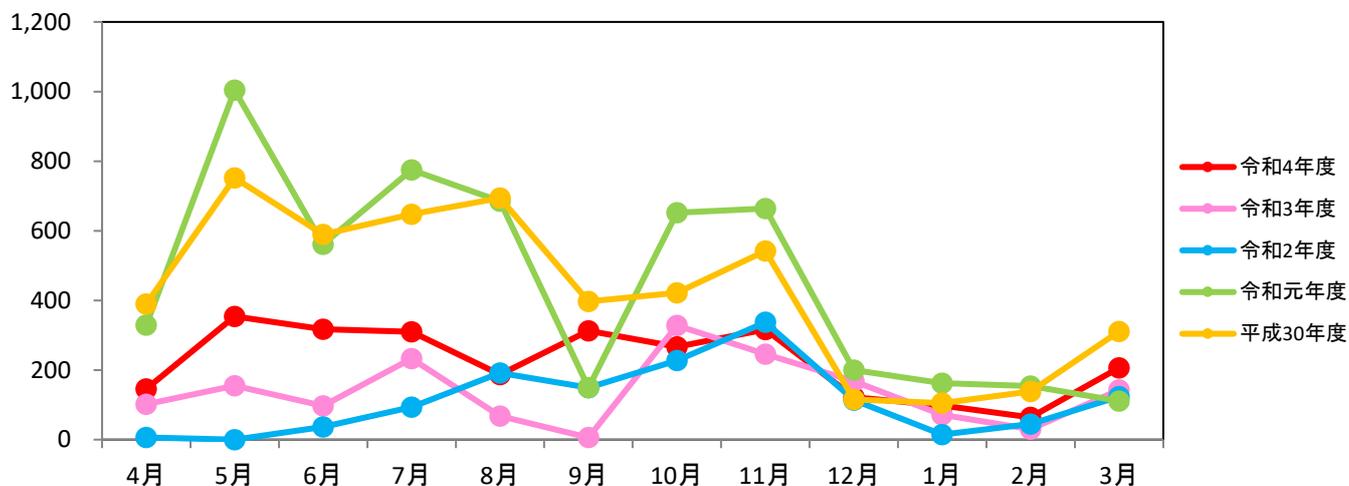
(2) ハイビジョン映像上映回数

- ・令和4年度ハイビジョン映像上映回数は670回、延べ人数は2,700人で、人数は前年度に比べ21%増となった。
- ・コロナが少しずつ落ち着き、11月以降はインバウンド利用がみられるようになった。

ハイビジョン映像上映人数一覧表（平成30年度～令和4年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和4年度	146	354	317	310	187	313	267	316	122	98	64	206	2,700
令和3年度	102	155	97	233	68	6	328	246	168	71	30	143	1,647
令和2年度	6	0	37	93	192	149	227	337	114	15	45	124	1,339
令和元年度	329	1,004	561	775	685	149	652	664	200	162	154	111	5,446
平成30年度	390	752	590	647	694	397	422	542	115	105	138	311	5,103

ハイビジョン映像上映人数推移（平成30年度～令和4年度）



外国語上映人数内訳（令和4年度）

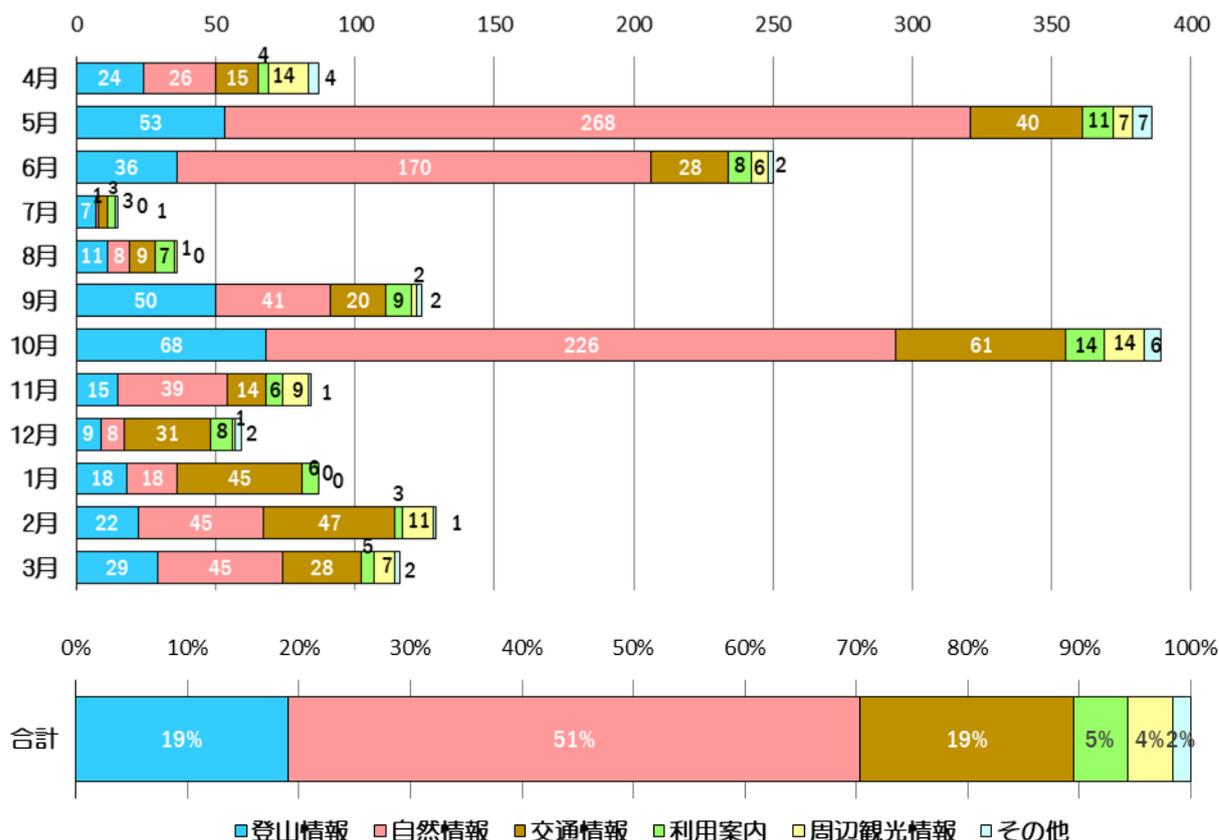


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
英語	0	0	0	0	0	0	0	20	1	0	0	8	29
中国語	10	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	20	34
韓国語	10	0	0	0	0	0	0	0	37	0	19	17	83
合計	20	0	0	0	0	0	0	20	38	4	19	45	146

2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業

(1) 利用案内・電話対応および国際化

- ・ビジターセンター受付カウンターおよび館内にて、国立公園の利用案内や自然情報等の情報提供をおこなった。頻繁に尋ねられるミヤマキリシマの開花や紅葉の時期については、一覧にしたボードを作成し、来館者がわかりやすいよう工夫した。
- ・観光案内所の職員と協力して、これまでと同様に周辺の観光施設や宿泊施設についても案内した。
- ・電話による問い合わせに対しても、受付カウンターでの対応と同様に対応した。5月～6月（主にミヤマキリシマ情報）、10月（主に紅葉情報）には特に電話による問い合わせの件数が多かった。冬季は積雪の状況についての問い合わせが多かった。



（上）月ごとの電話問い合わせ件数と内容。5-6月の自然情報はミヤマキリシマの開花、10月の自然情報は紅葉の進み具合についてのものが大半であった。数値は問い合わせ件数だが、パート職員の対応した分が計数されていないので総数ではない。（下）年間の電話問い合わせ内容の比率。自然情報、登山情報、交通情報で約90%を占める。

- ・英語での利用案内・解説ができる自然解説員を配置して利用案内の国際化に努めるとともに、英語で会話している来館者にも積極的に英語で話しかけた。
- ・受付カウンターに英語での対応ができることのほか、筆談でも案内できることを表示した。また、音声翻訳機「ポケットク」を配備し、英語以外の言語にも対応した。
- ・クイズラリー・スタンプラリーなどの館内アクティビティについては英語版も提供した。



英語による案内のようす

(2) 館内展示および自然ふれあい事業

① 常設展示

- ・下記の頻度で手作り展示を更新した。手作り展示や館内案内は原則として英語併記をおこない、展示・案内の国際化に努めた。

展示内容		展示場所	更新頻度
お知らせコーナー	写真①	2階入口付近	随時
くじゅうの自然写真館	写真②	2階受付付近	随時
登山のルールとマナー	写真③	2階受付付近	年7回
観光情報コーナー	写真④	2階受付付近	随時
展望コーナー周辺	写真⑤	2階展望室付近	随時
くじゅう連山自然情報	写真⑥	2階受付付近	随時
実物展示	写真⑦	2階受付付近	随時
ハンズオンコーナー	写真⑧	1階壁面付近	年8回
くじゅう植物図録	写真⑨	1階野焼きコーナー横	随時
タデ原フィールドガイド	写真⑩	1階入口付近	随時
キッズコーナー	写真⑪	1階階段横	年2回
くじゅうの自然を支える活動	写真⑫	階段ボード	年3回
チームタデ原活動紹介	写真⑬	階段ボード	年5回
登山道等整備活動紹介	写真⑭	階段ボード	年2回

ビジターセンター2階

- ・2階はメインの入口となっており、来館者の出入りも多いため、自然に関する情報および登山道情報を提供したり、展望を利用した休憩スペースを設置したりしている。また、観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナーや、周辺地域の観光情報等もわかりやすく紹介している。



① お知らせコーナー
センターからのお知らせ等を掲示した。



② くじゅうの自然写真館
くじゅう地域の旬な風景や動植物の写真を展示した。



③ 登山のルールとマナー
登山の初心者向けに、季節ごとの登山の服装や注意点などの説明をした。



④ 観光情報コーナー
国立公園周辺の見どころ等を、カケスマップ（周辺観光マップ）や写真などを使って紹介した。



⑤ 展望コーナー

雄大な景色を眺められるコーナー。望遠鏡のほか
に書籍や新聞を置いて、くつろげるようにした。



⑥ くじゅう連山自然情報

マンサクやミヤマキリシマの開花情報、紅葉情報
など問い合わせの多いものを館内に掲示した。



⑦ 実物展示

ヒミズの標本やオトギリソウ、ヤドリギなどの植物等
の実物を置き、動植物を身近に感じたり、小さな発見を
したりできるようにした。

ビジターセンター1階

・1階は、滞在時間が十分にある来館者が多く、タデ原湿原木道やくじゅう連山登山道につながる出入口
となっているため、タデ原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示した。



⑧ ハンズオンコーナー

実物に触れたり匂いを嗅いだりすることができるハンズオンコーナー。くじゅうでみられるシカ、アカハラ
イモリ、草原性のチョウやシジュウカラ、紅葉、マンサクなどの動植物のほか、化石や硫黄鉱山についても
紹介した。



⑨ くじゅうの植物図録

ボランティア団体「九重の自然を守る会」が作成した植物図録を季節ごとに入れ替えて展示した。



⑩ タデ原フィールドガイド
タデ原で今見られる動植物などを、楽しみ方の幅を広げる職員手づくりの解説付きで紹介した。



⑪ キッズコーナー
自然関係の絵本やパズルなどを置き、子どもや親子連れがゆっくり遊べるコーナーにした。

階段

・2階の入り口からの来館者がタデ原湿原や館内トイレに向かう動線上であり、多くの来館者が自然と展示を目にする場所であることから、くじゅうで行われている自然保護活動等を普及啓発する内容を展示した。



⑫ くじゅうの自然を支える活動
「飯田高原野焼き実行委員会」による野焼き、「パークボランティアの会」の活動、「九重の自然を守る会」の植物モニタリング調査を紹介した。



⑬ チームタデ原活動紹介
九重町の小中学生が参加する「チームタデ原」の活動を紹介します。



⑭ 登山道整備活動紹介
玖珠美山高校および久住高原農業高校が継続している登山道整備・環境保全活動を、協力者とともに紹介した。

クイズラリー・スタンプラリー

- ・来館者が目的をもって展示を楽しめるように企画したアクティビティ。特に、子どもたちが喜んで参加していた。参加者数はクイズラリーが 223 人（前年度比 17%減）、スタンプラリーが 799 人（前年度比 11%増）であった。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加前後の手指の消毒などを呼び掛けた。学校関係など団体での利用が減少しているため、前年度に引き続き参加人数は少なかった。
- ・シートは日本語と英語の 2 種類を用意した。
- ・参加者に受付でオリジナルシールをプレゼントし、好評であった。



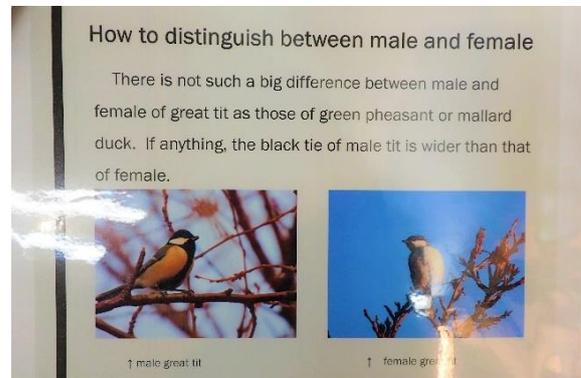
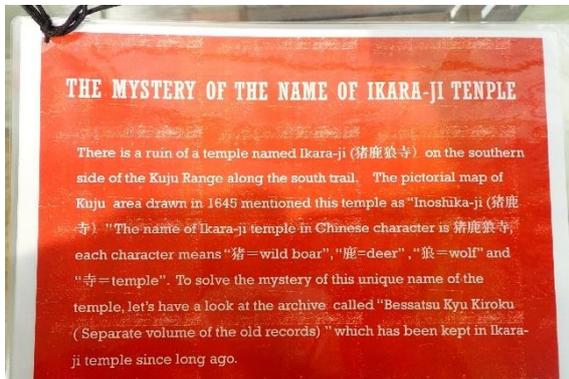
クイズラリー・スタンプラリー
シート配布の様子



クイズラリー・スタンプラリーの参加者の様子

展示の国際化対応

- ・企画展示を含む手づくり展示については、英語での解説を併記し、国際化への対応に努めた。



② 企画展示

- ・ 2階フロアなどで広い場所をとって比較的長期間実施する展示である。今年度は季節ごとに次の4回の企画展示を開催した。

展示内容	展示場所	展示期間
春の花～スプリングエフェメラルの世界	2階	令和4年4月28日～6月30日
くじゅうで、雲を、ながめよう	2階	令和4年7月15日～9月27日
くじゅう飯田高原の牧畜	2階	令和4年10月7日～12月10日
2022年を振り返る写真展～ビジターセンター職員が選ぶベストショット	2階	令和4年12月24日～5年3月31日

春の花～スプリングエフェメラルの世界

実施期間：令和4年4月～令和4年6月



くじゅう連山周辺で春に咲く花を取り上げて解説した。一番水周辺、男池、タデ原と身近な里山を取り上げ、地図を描いて、その場所で見ることができる春の花を写真・英語訳付きで説明した。タデ原花色マップに色別のシールを貼るコーナーをつくり、来館者が積極的に展示に参加できるように工夫するとともに、3月発行のくじゅうだより春号とも内容を連動させ、より詳しい解説を読むことができるようにした。

くじゅうで、雲を、ながめよう

実施期間：令和4年7月～令和4年9月



くじゅうで撮影された写真をもとに、雲の種類やできる高さなどについて、日本語と英語で解説した。また、夕焼けや虹などの気象現象についても、美しい写真を展示し解説を加えた。初めての試みとして、Webまたは紙のアンケート回答者から抽選で展示に用いた写真のポストカードをプレゼントすることとし、たいへん好評であった。

くじゅう飯田高原の牧畜

実施期間：令和4年10月～令和4年12月



くじゅうの景観を特徴づける「草原」と歴史的に深い関わりのあるくじゅう飯田高原の牧畜をテーマに、牧畜の歴史や現在の牧畜についてなど様々なトピックを、解説と多くの写真を用いて紹介した。昭和30年代のようすを写した写真を借用し、写真から歴史を感じられるようにした。また、観光案内所のスタッフと協力して飯田高原周辺の和牛のお店を紹介した。

2022 年を振り返る写真展～ビジターセンター職員が選ぶベストショット

実施期間：令和4年12月～令和5年3月



令和4年1月～12月の間にビジターセンター職員が撮影した写真の中から、各月2枚を厳選して、解説とともに展示した。自然の風景だけではなく、野焼きや草こづみといった伝統的な人々の活動も紹介し、地域の取り組みが来館者に伝わるようにした。気に入った写真にシールを貼る参加型の活動を組み込み、多くの人がじっくりと眺めてシールを貼っていた。

③ 自然ふれあい・解説事業

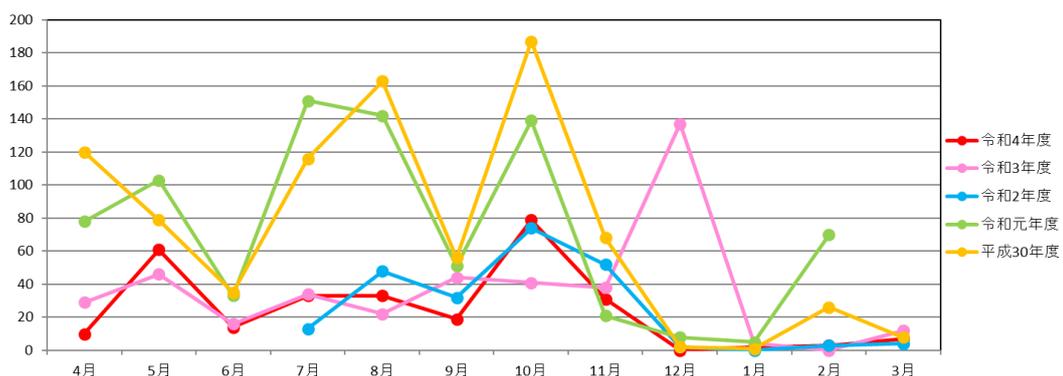
タデ原の自然観察会

- ・九重の自然を守る会の会員がボランティアガイドをおこなう。参加費は無料。
- ・令和4年度の自然観察会開催回数は45回、参加者数は延べ292人であった。参加者がいない月があるなど、ここ数年参加者数は低調なままである。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、団体での利用が引き続き減少していることが理由として考えられる。



自然観察会参加者数（平成30年度～令和4年度） ※斜線の月は中止

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和4年度	10	61	14	33	33	19	79	31	0	2	3	7	292
令和3年度	29	46	16	34	22	44	41	38	137	4	0	12	423
令和2年度	/	/	/	13	48	32	74	52	2	0	3	4	228
令和元年度	78	103	33	151	142	51	139	21	8	5	70	/	801
平成30年度	120	79	35	116	163	56	187	68	2	1	26	8	861



夜のタデ原さんぽ（新規イベント）

- ・閉館時間以降の夜間のイベントを企画し、「夜のタデ原さんぽ」として開催した。
- ・第1回 9月10日（土）18：00～19：40、一般参加者20名、案内：くじゅうネイチャーガイドクラブ
- ・第2回 9月24日（土）18：00～19：40、一般参加者12名、案内：ビジターセンター職員
- ・環境省から受託した「サステナブルツアー検討業務」のモデルツアーとして、今年度初めて開催した。第2回はやや天候に恵まれなかったが、参加者からはたいへん好評で、アンケートでも「また参加したい」などの声が聞かれた。



国立公園レクチャー

- ・ビジターセンター職員が国立公園やタデ原湿原について解説をおこなう。参加人数等に応じて、15～30分程度のレクチャーを行った。
- ・今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い屋外やシアタールームで人数を制限して実施することとした。昨年度に比べ多くの団体の方々にレクチャーを行い、特に9月と10月に回数が多かった。
- ・国立公園レクチャーの受け入れ回数は17回（前年度比7回増）、利用者延べ658人（前年度比62%増）。



令和4年度 国立公園レクチャー一覧

開催日	団体名	参加者（人）
5月18日	モラロジー研究所	26
7月6日	日出町川崎小学校	66
7月8日	杵築市立山香小学校	90
7月13日	クラブツーリズム	24
9月2日	中津市教育委員会	16
9月3日	大分県企業局厚生会	20
9月3日	中津市教育委員会	30
9月6日	龍谷大学環境サイエンスコース	15
9月14日	スマイルツアー	15

9月22日	福岡高校	40
9月26日	別府溝部学園短期大学	49
10月4日	北九州市立則松中学校	140
10月21日	安心院連合小学校	40
10月22日	放送大学大分学習センター	20
10月26日	宇佐市立和間小学校	16
11月6日	古賀市登山協会	24
1月28日	大分県青少年の家	27
合計（のべ）	17 団体	658

視察研修対応

- ・行政機関をはじめとする関係者の視察等の受け入れを随時行い、職員が館内展示や阿蘇くじゅう国立公園、タデ原湿原の自然環境などについて解説をおこなった。
- ・令和4年度の受け入れ回数は3回、利用者数は延べ18名と、前年度（6回、32名）に比べて減少した。また、新型コロナウイルス感染拡大以前の回数には回復していない。



令和4年度視察研修受け入れ事業一覧

開催日時	団体名	参加者（人）
11月6日	霧島錦江湾国立公園事務所	7
1月11日	菊池市役所	5
3月22日	ディステーションキャンペーン実行委員会事務局	6
合計	3 団体	18

④ 館内維持管理業務

- ・ビジターセンター館内は、朝または夕方にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃、展示のタッチパネルやエレベーターのボタンなどのアルコール消毒を毎日実施した。
- ・清掃業者による特別清掃（ワックスがけ等）を2月に実施した。



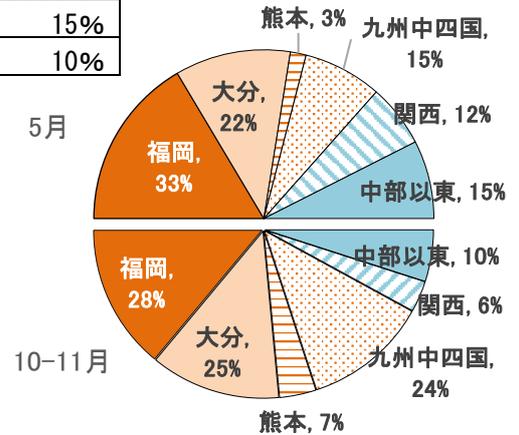
3. 来館者アンケート結果

来館者アンケートを2022年5月1日～5月7日と10月28日～11月6日の2回実施し、期間入館者数14,000名の約1.2%にあたる168名から回答を得た。

(1) 回答者について【右図参照】

	福岡県	大分県	熊本県	九州中四国	関西	中部以东
5月	33%	22%	3%	15%	12%	15%
10-11月	28%	25%	7%	24%	6%	10%

	20歳未満	20歳～39歳	40歳～59歳	60歳以上
5月	10%	7%	30%	53%
10-11月	1%	14%	26%	59%



(2) 来館回数

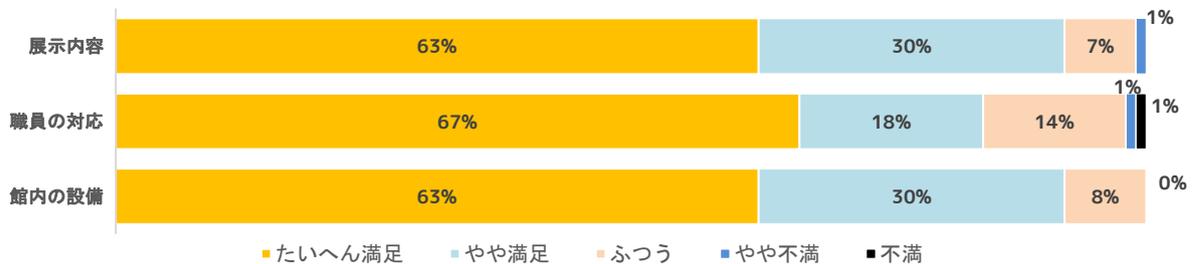
	はじめて	2～3回目	4～5回目	6回以上
5月	37%	27%	10%	27%
10-11月	40%	32%	10%	18%

(3) 長者原を訪れた目的【複数回答】

	タデ原の散策	登山	ビジターセンター	偶然通りがかった	ツアーの一部	その他
5月	65%	23%	25%	5%	0%	10%
10-11月	64%	16%	12%	15%	5%	8%

(4) 満足度について (5月・10-11月合算)【下図参照】

	たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
展示内容	63%	30%	7%	1%	0%
職員の対応	67%	18%	14%	1%	1%
館内の設備	63%	30%	8%	0%	0%

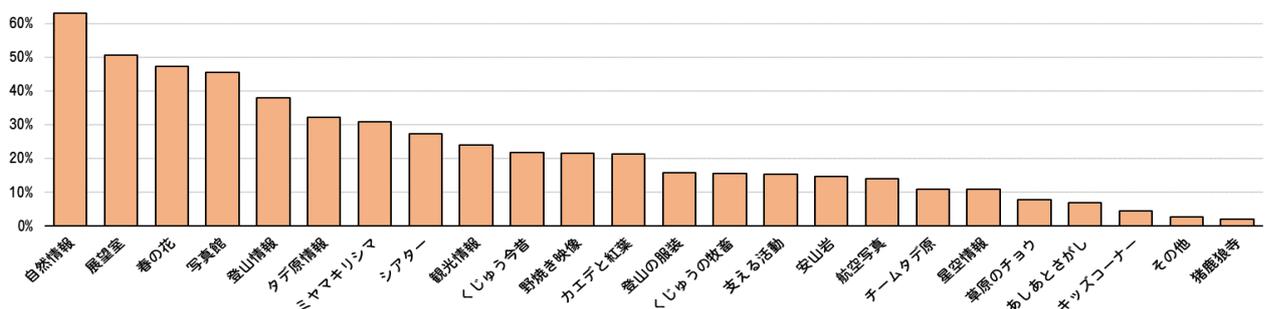


(7) 知りたい情報について (5月・10-11月合算)【複数回答】(上位のもののみ)

花と植物	登山情報	動物	歴史や文化	温泉情報	自然を守る活動	火山情報
78%	42%	37%	28%	25%	20%	16%

(8) よかった展示について (5月・10-11月合算)【複数回答】(表は上位のもののみ)

2F 自然情報	2F 展望室	2F 春の花の世界	2F 自然写真館	2F 登山情報	1F タデ原情報
63%	51%	47%	46%	38%	32%
1F くじゅうのミヤマキリシマ	2F ハイビジョンシアター	2F 観光情報	1F くじゅう今昔	1F 野焼き映像	1F カエデと紅葉
31%	27%	24%	22%	22%	21%



(9) 回答者のコメント（抽象的なもの、重複した内容のものは省略）

【館内展示・企画】展示がわかりやすく写真もきれいなものが多い / 年齢にとられないような展示内容でした / 山や湿原、動植物のことなど展示内容が充実している / 楽しく学習できるように工夫されています / ミヤマキリシマや山などの写真がキレイです / 何回か来ましたがその都度新しい展示があり楽しみました / 来るたびに四季折々の展示とても楽しみにしています / 季節ごとに展示を替わたりニュースを掲示するとい / とても良いと思います。ハイビジョンも有難いですね / 春の草花の写真展示、ミヤマキリシマ開花情報がよかった / 航空写真がとてもよかった。見ていて勉強になる / クイズがおもしろかった / 湿原の成立変化がとらえにくい / 案内所が閉館のため全体の観光案内図があればよい / 鳥や動物のことをもっと知りたい / 剝製があるとい / 黒岳の情報が少ない / 植物と鳥のお土産をぜひ作ってほしい / 星空の観察会などあるのでしょうか。イベントがもっとあってよいと思います

【情報提供・職員対応】facebook 毎日情報があるとうれしいです。いつも楽しみにしています / ホームページをみてそのわかりやすさにびっくりしました。無料バスの情報もとても参考になりました / ホームページでの紹介があると嬉しい / 紅葉やタデ原湿原でみられる植物の様子など周辺の散策に役立つタイムリーな情報をわかりやすく見せてくれて助かります。また違う季節にも来たいと思いました / ここから三俣山のようなWEBサイトで公開してほしい。立ち寄りきっかけになるので / いつもちょっとしたことでもお尋ねできて安心します / とても丁寧に教えて頂きました / いつ来ても感じよい対応で、疲れて山から戻ってきたときにほっこりさせていただいています / 職員が冷たい / 窓口の対応の悪さ / 各場所のパンフレットの英語版があることでインバウンドで訪れた方々に親切だと思いました / 今後宿泊でも来たいのでいろいろ情報が知りたい

【設備・施設】明るく清潔、BGMに癒される / とても雰囲気が良いです。カフェなんてあるとさらにのんびりしてしまいそう / 音楽がいい / 明るさ温度が適切で掃除もきれいにされていた / 広くて快適、きれい、木のぬくもりを感じる / きれいに整理されている / 展望室の大きな窓から見る景色がとてもすばらしい / トイレがウォシュレットだともっとよい / 女性トイレがわかりづらい / 外にもトイレがあったが館内トイレが2つというのは少なく感じた / きれいな更衣室が整備されて登山者にはありがたいことと思います / 久しぶりに山に登ったら眠くなった。睡眠する場所はありませんか？

【タデ原・周辺施設】散策コース整備素晴らしいです / 家族の介護で木道を歩きながら紅葉をめぐるためにきてます / 木道、自然観察路が整備されていて大変気持ちよかったです / 駐車場を広くしてほしい / 牧ノ戸峠よりビジターセンターに来る間の道路わきに駐車場を設置してほしい

【その他・全般】四季を通じていつも来ても心洗われる気がします。いつまでもこの自然が保護されますように拠点として活動してください / 月に一度は来ます。こんなステキな長者原にはまっています / いつ来ても温かくむかえてくれて心が穏やかに洗われていく感じです。こんなに素敵な（自然、スタッフさんも）ところがあり、また来る人の気持ちになって改善をされていることありがとうございます / いつもくじゅう登山の時に立ち寄っています。ありがとうございます / 九重に来たら必ず寄らせてもらっています。魅力がありすぎる。季節の移り変わりを体験できるので大好きです

(10) 分析

・来館者について

例年同様、福岡県と大分県で50%を超え、阿蘇くじゅう国立公園がまたがる熊本県からは少ない。年代については、5月・10-11月ともに60代以上が多かったが、2019年までのアンケートでは、5月は20-

59歳の層が多かった。今後も年齢層の変化については注視していきたい。繰り返し来館していただいているリピーターの割合には、大きな変化は見られない。

2020年以降の新型コロナ拡大に伴い、ツアーでの来館者はほとんど見られなくなったが、今回の10-11月のアンケートでは少し見られるようになった。アンケートに項目はないが、冬以降は外国からと思われる来館者も増加した。

・展示内容について

「たいへん満足」と「やや満足」を合わせると90%を超え、満足度は高い。しかし、10-11月のアンケートでは「たいへん満足」が減少した。

館内の展示の中では、「自然情報」の評価が最も高い。これは、ミヤマキリシマ情報・紅葉情報・タデ原情報からなり、来館者が最も望んでいる情報と考えられる。他にも、「春の花の世界」「自然写真館」「タデ原情報」「ミヤマキリシマ」など、くじゅうの代表的な自然や風景を紹介する写真を含むものが高い評価を得た。

コメント欄で動物や鳥についての展示・解説を求める声があった。今年度はチョウ、ニホンジカ、シジュウカラについて取り上げたが、企画展などについても検討していきたい。

・職員の対応や設備について

職員の対応についての満足度では、「たいへん満足」が最も多く評価が高い一方、対応の悪さを指摘するコメントもある。多様なお客様に満足していただけるよう、研鑽を積んでいきたい。

設備についても「たいへん満足」と「やや満足」を合わせると90%を超え、とりわけ展望室の評価が高いようだ。展望室をより快適な場所にするとともに、展示や掲示などに一層活用するといいかもしい。一方、トイレが分かりにくい、トイレが少ないといった指摘があった。トイレを増やすということは難しいので、わかりやすさや快適さなど改善できる点を確認していきたい。

・知りたい情報について

例年同様に「花と植物について」のニーズが高く、「登山情報、動物、歴史や文化」がこれに続く。昨年のアンケートのコメントを受けて、ミヤマキリシマ情報と紅葉情報については半常設の形でコーナーをつくったので、じっくり見ている人も年間を通じて多く見られた。

情報発信の方法としては、館内の展示のほかにWebページやSNSを通じた方法もあり、コメントからはそれらへの評価や期待もあるようだ。今後とも多様な発信方法をそれぞれ充実させていきたい。

II. 教育・普及啓発活動

1. 普及啓発活動

(1) 遭難事故防止・登山マナー向上活動

牧ノ戸峠 登山ミニレクチャー

開催日時：令和4年 6月4日（土）7：00～9：00

令和4年10月29日（土）7：00～9：00

場 所：牧ノ戸峠登山口

- ・公園利用者への適切な利用促進の一環として、くじゅう連山最大の登山口として利用されている牧ノ戸峠登山口において、「登山ミニレクチャー」を実施し、登山者に対する公園利用マナーの普及啓発を行った。
- ・早朝、登山者に向けて登山届の Web 上での提出、服装点検、持ち物確認、登山道の歩き方（植生保護のため）、ゴミの持ち帰り、下山時刻の確認、山のトイレの利用方法など、向上すべきルールやマナーについてマイクを用いて呼びかけた。
- ・今年度は、ミヤマキリシマ開花時期と紅葉の最盛期に実施した。ミヤマキリシマ開花期は当日の気温が低く登山者は少なめだったが、紅葉時期のレクチャーでは多くの人が朝早くから登山口に集まっており、約300名が呼びかけに応じ、登山届を提出した。
- ・従来の紙による登山届と併せ、大分県警の HP やアプリ「コンパス」を用いた Web 上での登山届事前提出について普及に努めた。



6月の呼びかけの様子



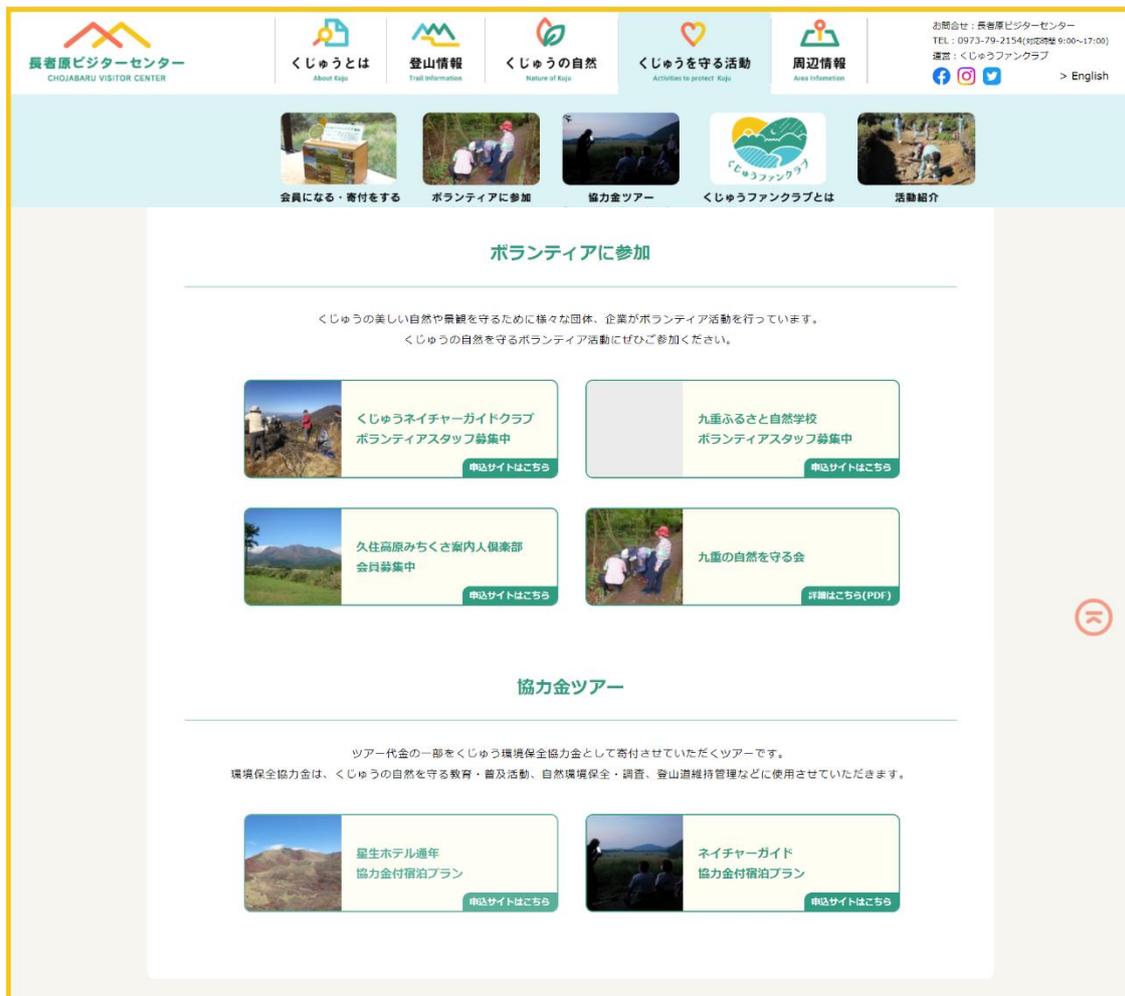
10月の呼びかけの様子

(2) 広報活動

① くじゅうファンクラブ（くじゅう地区管理運営協議会）ホームページ

令和4年度「最新情報」更新回数 22回

- ・くじゅうファンクラブホームページ上で、くじゅうについての様々な情報提供をおこなった。
- ・幹事会の承認を受け、閲覧者が利用しやすいようにバナータイトルの変更、SNS アイコンのトップページ表示、周辺関連施設紹介やくじゅうを守るボランティア・協力金ツアーへの参加ページ作成などHP 全体の大幅な改修を行った。



↑新規ホームページ イメージ図

② くじゅうファンクラブ フェイスブック

令和4年度投稿回数：82回

- ・くじゅう地区の最新の情報を幅広く提供するとともに、くじゅうに関心と持ってもらうことを目的に、フェイスブックに情報を掲載した。
- ・フォロワーの人数は、年度当初の6,366人から令和5年3月末には6,883人へ約500名増加した。
- ・投稿がタイムラインやシェア・検索などを通じて受け手に表示された数を示す「リーチ数」は、平均すると1回の投稿あたり3,800回であり、合計でのべ31万人に情報が届けられたことになる。リーチ数の最大は8,676回（10月29日、紅葉時牧ノ戸レクチャー）で、次に由布岳の死亡事故についての記事が上位となった。コロナ緩和後に登山者が増加する中で登山の安全性やミヤマキリシマ、紅葉については特に多くの人が閲覧やシェアをおこなっている。
- ・英語のコメントやハッシュタグを併記することで、外国人からの反応も継続的にみられている。



③ くじゅうファンクラブ インスタグラム

令和4年度投稿回数 54回

- ・くじゅう地区の美しい写真を通じて、国内外で幅広くくじゅう地区に関心を持ってもらうために、インスタグラムへの投稿を実施した。
- ・今年度も閲覧者が増加すると共に、順調にフォロワー数が伸びて2700人を超えた。
- ・6月のミヤマキリシマでは最大1140いいね！の反応があり、特に紅葉の時期以降「いいね！」の数が増加し、コメント投稿数の増加が見られた。
- ・英語のハッシュタグをつけるだけでなく、英語でのコメントを併記したことで、外国人利用者からもいいね！やコメント投稿などの反応があった。くじゅうについての認知度を国内外に高めるために役立つと考えられる。



④ くじゅうファンクラブ ツイッター

令和5年1月より毎朝投稿

- ・くじゅう地域の最新情報を毎日利用者に提供するために、令和5年1月よりツイッターへの投稿を開始した。
- ・HP改修前であったが、順調にフォロワー数が伸びて3月末には175人を超えた。
- ・2月冬山登山の情報では、ツイッターで表示された回数を示すインプレッション数が最大1451となった。



⑤自然情報の提供

- 植物の開花や紅葉の進み具合を調べ、「自然情報」として館内に掲示するとともに、メーリングリスト登録者および近隣の観光案内所や施設に随時配布した。
- 令和4年度作成した自然情報は次の通り。
 - タデ原自然情報：4～10月に月2回、計13回
 - ツクシヤクナゲ開花情報：4～5月に2回
 - ミヤマキリシマ開花情報：5～6月に6回
 - 紅葉情報：10～11月に7回
 - マンサク開花情報：3月に3回
- タデ原やくじゅう連山を訪れる人にとって役に立つ情報源となっている。今後もきめ細かな情報提供を心掛けながら継続していきたい。

タデ原湿原 自然情報 【2022/09/01】

最近では朝夕は20度を下回りひんやりと肌寒く、空には多くのトンボが飛び交い、ひと足早く秋の訪れを感じます。木道沿いでは秋の七草のススキやハギの仲間がよく目立つようになりました。アケボノソウも花を開き始め、キセルアザミやタムラソウ、ワレモコウやシラヒゲソウなどの秋の花々が彩り豊かに咲いています。ヒゴタイの背景にススキが揺らいているのも、この季節ならではの風景かもしれませんね。引き続きコロナウイルスの対策も行いながら、タデ原で季節が移り変わる様子を味わってみてはいかがでしょうか。



↑ 8月31日 ヒゴタイとススキと三俣山
夏の終わりと秋の始まりが伝わってきます。



↑ 8月31日 アケボノソウ
とても美しい花です。蜜腺にはアザミがやってきます。



↑ 8月29日 ミズオトギリ
夕方になると花を開きます。淡いピンクが綺麗です。



↑ 8月31日 タムラソウ
アザミに似ていますが、葉っぱにトゲはありません。



↑ 8月31日 キセルアザミ
花粉を運んでくれる虫たちがよくやってきます。



↑ 8月29日 シラヒゲソウ
葉っぱは丸くてとてもかわいらしいです。

令和4年10月20日

作成：くじゅう地区管理運営協議会

くじゅう連山紅葉情報(vol_3)

調査日	場所	紅葉のようす
10月20日	大船山・御池 (標高 約1,750m)	見ごろ
10月19日	三俣山 (標高 約1,700m)	見ごろ
10月20日	星生山西面 ※ (標高 約1,600m)	見ごろ
10月20日	肥前ヶ城・扇ヶ鼻 ※ (標高 約1,650m)	見ごろ
10月20日	沓掛山 ※ (標高 約1,500m)	見ごろ
10月20日	牧ノ戸峠 (標高 約1,300m)	見ごろ
10月20日	長者原 (標高 約1,000m)	色づきはじめ

※ 登山者・関係者による情報です

山々の紅葉は、先週末から今週初めにかけて、驚くほど一気に進みました！ 一日一日と色が深くなり、標高1,300mの牧ノ戸峠でも十分に楽しめる状況です。今週末冷え込みと晴天が続いているので、山麓の紅葉もこれからすすんでいくことでしょう。紅葉などの自然情報はフェイスブックでも確認できますので、ご利用ください。→ <https://www.facebook.com/choujubaruisitor>



10/20 大船山御池

10/20 大船山段原



10/20 三俣山



10/20 星生山西面

⑥「くじゅうだより」の発行

- くじゅうの自然をより深く理解してもらうことを目的に、年4回発行した。ビジターセンター内で配布するほか、くじゅう地区管理運営協議会の各会員施設でも配布した。
- 登山コースの紹介や季節ごとのお勧め周辺スポット紹介や、企画展と連携した植物紹介を行った。

2. 環境教育活動

(1) チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～

- ・平成27年度にくじゅう地域で開催されたKODOMO ラムサールをきっかけに、地元の小中学生で結成された自然保護活動グループ。令和4年度のメンバーは小学生6名であった（今年度2名加入、中学生不在）。
- ・子どもが主体となった活動グループを目標とし、子どもたち自身で活動を計画・実行・振り返りをおこなっている。その活動のサポートを当協議会がおこなった。
- ・今年度は昨年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、宿泊学習が日帰りになる等の変更があったが、佐賀県鹿島干潟との交流会を持つなど対外的な活動も徐々に復活している。
- ・昨年に引き続きタデ原湿原に「草こづみ」を復活させ、さらに自分たちが作った草こづみの干し草を近隣の畜産農家に運んで、牛に給餌した。バーベキューで豊後牛を食べる体験を行うなど、地域の方の協力を得て地域循環を直に学び、充実した活動を行うことができた。

令和4年度 「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」活動一覧

開催日	概要	参加者（人） ※スタッフ含む
4月23日	キッズガイド（昨年度活動）	10
5月22日	初夏のタデ原観察	13
7月3日	鹿島干潟交流会	13
8月9日	坊ガツル学習会	13
9月23日	草こづみづくり	11
12月4日	草こづみ運び・バーベキュー	12
2月18日	年間計画と新聞づくり	12
3月12日	野焼き見学	9



キッズガイド



鹿島干潟交流会



坊ガツル学習会



草こづみづくり

(2) 総合学習支援活動

協議会の会員である九重町及び竹田市・由布市で、小中学校の総合学習の支援活動を受け入れている。九重町立飯田小学校では、総合学習で各学年ともタデ原について学んでおり、講師の派遣やガイドの支援などを実施した。

九重町立飯田小学校 6年生

- ・7月11日、8月6日（6人）
- ・タデ原湿原の成り立ちや湿原の保護、希少な動植物について学び、自分なりにまとめ、来場者に伝える「キッズガイド」を3年ぶりに実施するための学習支援を行った。



タデ原湿原について学ぶ



キッズガイドの様子

九重町立飯田小学校 3年生

- ・9月14日、10月4日（6名）
- ・総合学習の中で飯田高原の自慢を見つけるため、タデ原湿原を探検して自慢となるものを探した。ビジターセンター職員が解説を行い、タデ原湿原でタブレットを使用し、まとめ学習を行った。



九重町立このえ緑陽中学校 3年生

- ・10月27・28日（1名）
- ・職場体験学習。ビジターセンターで受付や自然情報収集、ゴミ拾い、ハンズオン展示の作成を行った。



ハンズオン展示の準備



身近な鹿について展示作成

Ⅲ. 自然環境保全・調査活動

1. 自然環境保全活動

(1) 外来種等駆除活動

タデ原湿原には特定外来生物であるオオハンゴンソウが生育しており、その他にも数種の外来植物が生育している。今年もくじゅう地区管理運営協議会の会員等と連携しながら、駆除活動を支援した。数年にわたる駆除活動の成果が現れ、タデ原におけるオオハンゴンソウの個体数はかなり少なくなってきた。



坊ガツルやくじゅう連山では、ノリウツギなどのかん木が生育して希少種の生育や景観の妨げになっているところがある。これらの支障木についても、外来種同様管理者の許可のもとで伐採がおこなわれており、この活動を支援した。

実施日	内容・場所	主催団体	支援内容
7月23日	オオハンゴンソウ駆除・笹ヶ台入口	飯田地区まちづくり協議会	用具貸出
8月5日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重町・環境省	職員参加・用具貸出
8月6日	オオハンゴンソウ駆除・タデ原	九重の自然を守る会	用具貸出
8月27日	ノリウツギ伐採・坊ガツル	くじゅうネイチャーガイドクラブ	用具貸出
8月27日～28日	オオハンゴンソウ駆除・タデ原	九重の自然を守る会	職員参加・用具貸出
9月11日	オオハンゴンソウ駆除・タデ原	九重の自然を守る会	職員参加・用具貸出
9月25日	オオハンゴンソウ駆除・タデ原	九重の自然を守る会	用具貸出
10月23日	オオハンゴンソウ駆除・タデ原	九重の自然を守る会	職員参加・用具貸出
10月29日	オオハンゴンソウ駆除・笹ヶ台入口	飯田地区まちづくり協議会	用具貸出
10月30日	オオハンゴンソウ駆除・タデ原	九重の自然を守る会	用具貸出
11月6日	オオハンゴンソウ駆除・タデ原	九重の自然を守る会	用具貸出
11月20日	オオハンゴンソウ駆除・タデ原	九重の自然を守る会	用具貸出
11月27日	オオハンゴンソウ駆除・タデ原	九重の自然を守る会	用具貸出
2月25日	ノリウツギ伐採・タデ原	九重の自然を守る会	用具貸出

(2) 美化清掃活動

8月5日に開催された自然公園クリーン作戦（九重町・環境省主催）に職員が参加するとともに、道具の貸し出しや軍手・お茶の提供をおこない、環境美化に協力した。

10月15日に実施されたやまなみハイウェイ美化清掃活動（つながるひろがるやまなみハイウェイ実行委員会主催、道守九州会議ほか協力）に職員が参加し、瀬の本から長者原までの美化活動を行った。

11月11日に大分県主催「山のトイレをキレイに使い隊運動」に職員が参加し、久住分かれに設置されている山岳トイレの美化清掃活動への協力を呼び掛けた。

11月15日、大分西部森林管理署の呼びかけに応じて、関係機関の職員とともに、やまなみハイウェイ沿線の不法投棄ゴミの処理を行った。

これらの行事やイベントのほか、登山道巡視や自然情報収集活動の際に日常的にゴミを拾うなど、くじゅう連山と周辺の美化清掃活動に取り組んだ。



(3) 野焼き活動

くじゅう地区では、草原景観の維持と希少種の保護などを目的に各地で野焼きが実施されている。今年度も野焼きを行う各団体と連携しながら、防火帯の作成、野焼きの作業、用具の貸出などを通じて野焼き活動を支援した。消火用具（ジェットシューター）を地域の野焼きや防火帯焼きに合計8回貸し出したほか、以下の活動については職員も参加して消火活動などの作業にあたりるとともに、飲料と軽食の提供もおこなった。

実施日	内容	場所	主催団体	支援内容
4月3日	野焼き	大將軍・やまなみ沿線	飯田高原野焼き実行委員会	職員参加・飲食提供
9月13日	防火帯切り	タデ原外周	飯田高原公私隊	職員参加
10月11日	防火帯焼き	タデ原外周	飯田高原公私隊	職員参加
2月16日	防火帯切り	タデ原西	環境省くじゅう管理官事務所	職員参加
3月4日	野焼き	沢水キャンプ場周辺	竹田市	職員参加・飲食提供
3月12日	野焼き	泉水山・タデ原	飯田高原野焼き実行委員会	職員参加・飲食提供
3月19日	野焼き	大將軍・やまなみ沿線	飯田高原野焼き実行委員会	職員参加・飲食提供

また、野焼きの課題を評価し野焼きを支援するためのヒアリングおよび検討会（飯田高原野焼き実行委員会主催、環境省グリーンワーカー事業）に参加した。



(4) 九重町自然環境保全推進委員会

年3回開催された九重町の自然環境保全推進委員会に委員として出席し、生物多様性ここのえ戦略の推進や、戦略に基づいた啓発活動の策定に協力した。また、同委員会活動の一環として開催された「生物多様性に関する学習会」に参加し、生物多様性重要スポットの現状を確認した。

2. 調査活動

(1) モニタリングサイト 1000 里地調査

環境省のモニタリングサイト 1000 里地調査の調査地として登録されているタデ原湿原（九重町）と沢水キャンプ場周辺（竹田市久住町）において、植物のフェノロジー調査（3月～11月に毎月1回実施）にそれぞれ職員が参加するなどして協力した。



(2) 長者原地区植物保全協議会

大分県のやまなみハイウェイ歩道拡幅工事に伴う長者原地区植物保全協議会に、2017年度より委員として参加している。今年度も、やまなみハイウェイ沿線の植物調査及び工事方法について検討する会議に次の通り出席し、調査等を行った。

- 法面伐採跡の植生モニタリング（5月6日）
- 第20回協議会および現地調査（5月26日）
- 法面伐採跡の植生モニタリング（10月4日）
- 第21回協議会および現地調査（11月4日）
- 第22回協議会（2月15日）
- 伐採計画地立ち合い（2月17日）



(3) 希少種の調査・保全

以下の調査や観察会に参加し、希少種の生育状況やフロラを記録に残すとともに、情報を職員で共有した。

- ・大分生物談話会植物班フロラ調査（5月、11月：赤川登山口～猪鹿狼寺本堂跡周辺）
 - ・竹田市岡の里事業実行委員会植物観察会（6月：タデ原周辺、7月：赤川登山口周辺、9月：白水鉱泉～雨堤）
- また、登山道巡視や自然情報収集活動の際に、希少種や国立公園指定植物の生育状況について確認した。



マイヅルテンナンショウ（サトイモ科）
環境省・大分県 RDB 絶滅危惧Ⅱ類(VU)



アケボノソウ（リンドウ科）
大分県 RDB 準絶滅危惧(NT)

IV. 登山道等管理活動

1. 登山道保全活動

(1) 登山道保全活動（主催事業）

- ・ 玖珠美山高校との登山道保全整備活動（長者原～スガモリ越間）

くじゅう地区管理運営協議会会員と協力し、玖珠美山高校地域産業科 3 年生 19 名と、長者原～スガモリ越間の登山道保全整備活動を行った。

日時：11 月 9 日（水）9:30～15:20

内容：登山道の土留め修繕、石詰め作業、草刈り等の担当に分かれ、会員が作業指導を行った。

参加した当協議会会員及び関係者（全 28 名）：環境省くじゅう管理官事務所 3、大分西部森林管理署 4、大分県 2、竹田市 3、玖珠警察署 3、九重の自然を守る会 6、くじゅうネイチャーガイドクラブ 2、九重ふるさと自然学校 1、ビジターセンター 4



(2) 登山道保全活動（正会員活動助成事業）

- ・ 当協議会の正会員活動助成事業として、以下の登山道保全活動の助成を行った。

ア 大船登山道（登山バス池窪ルート）の草刈り、登山道補修

実施者：NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部

日時：10 月 5 日、10 月 19 日、10 月 26 日、11 月 2 日

内容：大船登山道（登山バス池窪ルート）の草刈り、登山道補修

助成金額：150,000 円



イ 黒岩山・泉水山草切り作業

実施者：NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ

日時：10月9日、10月16日

内容：登山道の草刈り、支障木の枝打ち

助成金額：160,000円



ウ 指山登山道山頂付近の草刈り・登山道補修作業

実施者：NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ

日時：10月22日、10月23日

内容：指山登山道の山頂付近の草刈り、枝払い、登山道補修

助成金額：130,000円



エ 坊原登山道草刈り・登山道補修作業

実施者：NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ

日時：11月20日、11月27日

内容：登山道の草刈り、支障木の枝打ち、登山道補修

助成金額：120,000円



(3) 道標交換

- ・登山道の老朽化している道標について、新たに2基の補修・交換を行った。

本年度交換した道標および山頂標柱は次の通り。交換の際にはいずれもローマ字表記を併記し、外国人登山者にもわかりやすくなるようにした。設置は正会員に委託をして実施した。

ア 東千里ヶ浜<環境省執行路線上> (南登山口、御池・避難小屋、白口谷分岐)

設置:NPO法人くじゅうネイチャーガイドクラブ

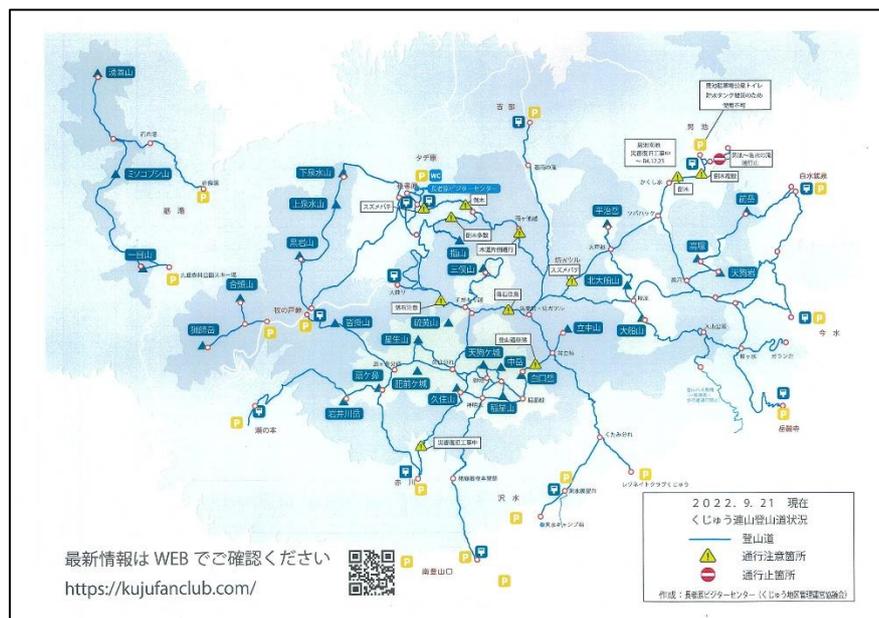
イ 池窪・柳ヶ水分岐<竹田市執行路線上> (登山バス終点(池窪)、柳ヶ水・岳麓寺、大船山頂)

設置:NPO法人久住高原みちくさ案内人倶楽部



(4) 登山道等についての情報収集・情報提供

- ・環境省と大分県から管理路線の巡視業務を受託し、仕様書に基づいて巡視を実施した。
- ・タデ原木道を随時巡回し、異常箇所がないかどうか確認するとともに、ごみ拾いを行った。
- ・登山者から寄せられた登山道についての情報を集約し、環境省、林野庁、大分県等の関係機関に提供した。
- ・長者原研究路や雨ヶ池コースの入口のスズメバチの巣については、安全のため環境省と共同でロープ柵や注意喚起の看板を設置した。
- ・9月18～19日に大型で非常に強い台風14号が通過したため、大分県管理路線については緊急巡視契約を締結し巡視を行った。
- ・台風14号により発生した危険倒木については、土地の所有者や路線執行者へ連絡を行うとともに注意喚起の掲示を行った。またできる範囲で職員が切断・除去作業を行った。
- ・登山道の状況については、一般の登山者などから主に電話で多くの問い合わせがあり、これらについても丁寧な対応を心掛けた。また利用者へ向けて随時ホームページやSNSで情報発信を行った。



長者原ビジターセンターホームページでの登山道情報発信の例

2. 長者原周辺の美化清掃活動

(1) 公衆トイレ清掃・園地清掃業務

- ・環境省から長者原地区にある2つの公衆トイレ及び長者原園地の清掃業務を受託し、仕様書に基づき清掃を行った。

ア 公衆トイレ清掃

- ・ミヤマキリシマの時期・夏休み中・紅葉の時期などには1日に2回点検や清掃を行うなど対応を強化し、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、ドアノブ・便座・カラン等のアルコール消毒を行った。

イ 園地清掃等

- ・長者原園地・駐車場及びその周辺において、ゴミ拾い等の清掃活動を随時実施した。
- ・長者原園地では落ち葉清掃を行った。



(2) その他園地・駐車場管理業務等

- ・積雪時には利用者の安全を確保するためビジターセンター前の除雪を行った他、駐車場の白線が見えなくなるため通路にコーンを設置して利用者の混乱を防いだ。
- ・各登山口においては、管理者による管理を補助する形で、随時ゴミ拾いを行った。
- ・タデ原周辺の自然歩道脇の草刈り、ビジターセンター周辺の防火線切りを実施した。



(3) タデ原木道の保守業務

- ・3月末に実施されるタデ原の野焼きに備え、タデ原木道が延焼しないよう、環境省の仕様書に基づき11月15日、20日に木道の周囲の防火線切りおよび草寄せの作業を行った。



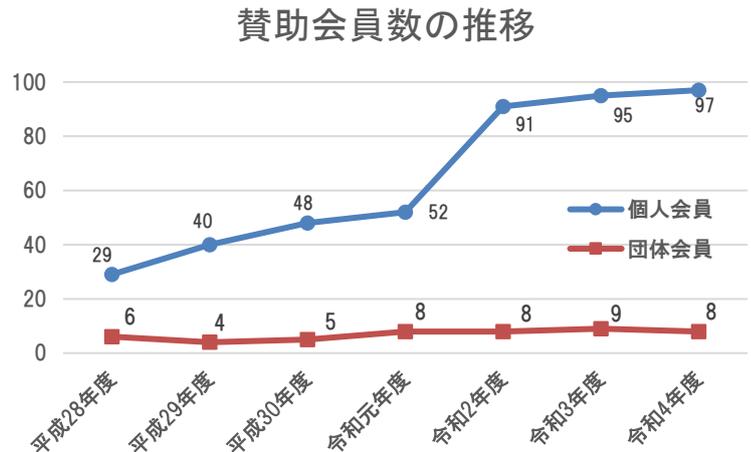
V. その他

1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度

(1) 賛助会員制度

- ・パンフレットの配布、関係団体の訪問などを通して、くじゅうファンクラブの活動に賛同する賛助会員を募った。令和2年度に、豪雨被害に対する支援として個人会員が大幅に増えたが、その後は微増となっている。

- ・賛助会員数 個人会員：97名
団体会員：8団体



(2) 寄付制度

①募金箱の設置

- ・くじゅう地区管理運営協議会の会員および賛助会員などの関係施設のうち、賛同していただいた16施設および長者原ビジターセンター内に募金箱を設置し、協議会活動への支援を募った。昨年度に比べて募金額は大幅に増加した。
- ・募金箱への募金額 計 278,344円（令和3年度82,821円）

②一般寄付

- ・パンフレットやホームページを通じて、くじゅう連山の環境保全のための寄付を募った。昨年度、一昨年度に比べて、寄付件数・寄付額とも大幅に減少した。
- ・内訳 個人寄付4件23,000円（令和3年度11件98,000円）
団体寄付1件10,200円（2022ミスアースジャパン大分大会ファイナリスト様）
（令和3年度4件162,240円）
計 33,200円（令和3年度260,240円）

③環境保全のための協力金付ツアーおよび協力金付宿泊プラン販売等からの寄付

- ・令和4年度も当協議会会員や国立公園満喫プロジェクトオフィシャルパートナーなどによって、環境保全のための協力金付ツアーおよび協力金付宿泊プランの販売が行われ、その利益の一部からご寄付をいただいた。
- ・協力金付ツアー・宿泊プラン・飲料水販売などからご寄付いただいた団体（順不同・敬称略）
有限会社星生温泉（宿泊プラン：九重星生ホテル）
やまはくうみはく協議会（ツアー事務局：大分朝日放送）
有限会社法華院温泉（宿泊プラン：法華院温泉山荘）
スマイルツアー（ツアーガイド：くじゅうネイチャーガイドクラブ）
グローバルユースビューロー（ツアーガイド：くじゅうネイチャーガイドクラブ）
JTB福岡支店（ツアーガイド：くじゅうネイチャーガイドクラブ）
夜の星空散歩参加者
- ・協力金からの寄付金 計 337,100円（令和3年度389,780円）

2. 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置

(1) 長者原ビジターセンターの運営

① 長者原ビジターセンターの運営

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、環境省担当官と協議のうえ、昨年度作成した新型コロナウイルス感染症拡大防止のための運営に関するガイドラインの見直しを随時行い、ガイドラインに基づいて運営を行った。
- ・国の方針に従い令和5年3月12日まで長者原ビジターセンター入口に、検温計とアルコール消毒剤の配備を行い、マスクの着用を呼び掛けた。また受付にはビニールシートを設置して、飛沫による感染の予防をおこなった。
- ・清掃時には手すりや展示物など人の手に触れる部分のアルコール消毒を行った他、展示物には展示を触った後に手洗いやアルコール消毒の呼び掛けの掲示を行った。



3. 職員研修実績

① 自然史博物館のデジタル化はどこを目指すか？資料から業務まで

(西日本自然史系博物館ネットワーク主催 ZOOM 研修)

開催日時：令和4年11月7日 参加者：竹菴

概要：標本や展示のデジタル化によるオンライン博物館の可能性について

② 環境ユースフィールド研修（地球環境基金主催）

開催日時：令和4年11月12日、21日～23日 参加者：又吉

概要：阿蘇地域において持続可能な地域課題解決のための取組について学んだもの。

③ 受託業務研修（講師：株式会社一成 杉万氏）

開催日時：令和4年12月2日 参加者：種村・大島・竹菴・又吉

概要：行政機関からの受託業務の見積作成・契約・報告業務の基本について研修したもの。

④ くじゅうの野鳥（講師：九重ふるさと自然学校 阿部氏）

開催日時：令和4年12月7日 参加者：種村・大島・竹菴・又吉

概要：くじゅう地域で観察することができる野鳥について研修したもの。

⑤ 九十九島 VC、雲仙諏訪の池 VC、雲仙お山の情報館、平成新山ネイチャーセンター、荒尾干潟水鳥・湿地センター訪問

開催日時：令和4年12月16～17日 参加者：大島・竹菴

概要：各ビジターセンターの展示や運営体制のほか、雲仙諏訪の池 VC では星空観察会のヒアリングを行ったもの。

⑥ 八ヶ岳の安全登山～遭難事故防止から（筑波大学主催 ZOOM 研修）

開催日時：令和5年2月24日 参加者：竹菴・大島

概要：山岳事故、自然環境、生物多様性保全などの視点から安全な登山について研修したもの。

⑦ 野焼き講習会（飯田高原野焼き実行委員会主催）

開催日時：令和5年3月4日 参加者：又吉

概要：野焼きを行う現場を実際に見学し、野焼き時の安全管理等について学んだもの。

4. 新聞掲載記事



レクチャーを受け、登山
届に記入する登山客ら

**登山マナー啓発
「ミニレクチャー」
九重の牧ノ戸峠登山口**

【九重】登山者にマナー向上などを啓発する「登山ミニレクチャー」が10月29日、九重町湯坪の牧ノ戸峠登山口であった。くじゅう地区管理運営協議会（会長・日野康志九重町長）の主催。

町内の自然保護団体や県警などから9人が参加。紅葉シーズンを迎えたくじゅう連山へ向かう登山客に、登山届の提出や持ち物の確認などを呼びかけた。

協議会の種村英大事務局長（40）は「登山届は県警のホームページから事前に出せる。安全に山を楽しむため、備えをしっかりとしてほしい」と話した。

（姫野直也）

← 大分合同新聞
令和4年11月11日（金）

11

登山道「歩きやすく」
くじゅう連山で玖珠美山高生



登山道を補修する玖珠美山高生ら（九重町）

【九重・玖珠】玖珠町の玖珠美山高の地域産業科3年生は9日、くじゅう連山の登山道の補修作業をした。卒業記念の一環。

生徒19人と環境省や地元自然保護団体などの指導スタッフ30人が参加。九重町の長者原ビジターセンター

1で開会式をした後、生徒らは約1時間かけて山を登った。

長者原から諏峨守越線の約300mで作業。崩れた足場に木材を打ち込んで土のうを敷き詰め、草刈りなどもした。

衛藤史帆さん（17）は「みんなで協力して作業するのは楽しいし、うれしい。安全に山登りをしてほしい」と話した。

（姫野直也）

↑ 大分合同新聞
令和4年11月12日（土）

5. 地域の概要

阿蘇くじゅう国立公園は、九州のほぼ中央に位置し、周囲約 100km に及ぶ世界最大級の阿蘇のカルデラ地形と、その北東部に連なるくじゅう火山群、由布岳、鶴見岳からなる、火山地形と草原景観が特徴的な国立公園である。その中でも、くじゅう地域は「九州の屋根」とも呼ばれ、1,700 m 級の峰が連なり、初夏はミヤマキリシマの花、秋は紅葉で山々が彩られる。また、山間の坊ガツル湿原・タデ原湿原は、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されており、山麓の飯田高原・久住高原などの広大な高原と並び、湿地性・草原性の多様な草花や野鳥・昆虫など多くの動植物の貴重な生育場所となっている。

長者原ビジターセンターは、通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿いの大分県九重町長者原地区にあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの眼前にはタデ原湿原が広がり、設置された木道を歩くと、四季折々の自然を肌で感じることができる。



くじゅう連山（ミヤマキリシマ開花期）



タデ原湿原

【位置図】



阿蘇くじゅう国立公園

指定：1934年（昭和9年）

公園面積：72,678ha（くじゅう地域 18,310 ha）

6. 運営体制

事務局

九重町役場 商工観光・自然環境課内

事務局員

種村 英大（事務局長）

大島 和伸

竹菴 明日香

又吉 真鈴

九重町商工観光課自然環境グループ

井上 隆史

帆足 ちひろ

くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、由布市、九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、釜ノ口温泉観光協会、NPO 法人竹田市観光ツーリズム協会、やまなみ観光株式会社(レストハウスやまなみ)、有限会社法華院温泉(法華院温泉山荘・法華院温泉高原テラス)、株式会社おおいた観光サービス(オーベルジュ・コスモス)、九重森林公園株式会社(九重森林公園スキー場)、九重の自然を守る会、有限会社星生温泉(九重星生ホテル)、一般財団法人セブニーイレブン記念財団(九重ふるさと自然学校)、NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部、NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ、株式会社牧の戸(牧ノ戸峠レストハウス)、寒の地獄株式会社(寒の地獄旅館)、株式会社まきのとコーポレーション(九重観光ホテル)、飯田高原観光株式会社(長者原ヘルスセンター)、有限会社みやま商店(モンベルルーム くじゅう長者原店)、株式会社エルランチョ・グランデ、大分県農業協同組合(飯田高原ドライブイン)、有限会社くじゅう倶楽部、九重ヒュッテ、大分県立九重青少年の家、飯田高原デザイン会議、株式会社橋本建設、株式会社ア・マ・ファソン(オーベルジュ・ア・マ・ファソン)、株式会社星野リゾート(界 阿蘇)、有限会社吉武建設(くじゅうやまなみキャンプ村)、株式会社レゾネイト(レゾネイトクラブくじゅう)、公益財団法人九電みらい財団、一般財団法人 TAO 文化振興財団(TAO の丘)、くじゅう地区パークボランティアの会、有限会社スパグリネス (スパ・グリネス)、このえまち総合サービス株式会社、ラフクリエイション株式会社 (天空の大地久住高原ホテル)、温泉コスメティック株式会社 (赤川温泉赤川荘)

(敬称略・順不同)

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員

九州電力株式会社 (八丁原発電所)、九州林産株式会社林業部、大分県高等学校体育連盟登山専門部、福岡県高等学校体育連盟野外活動専門部、福岡県中学校体育連盟野外活動部、株式会社共栄フーズ(くじゅう花公園)、九重町観光協会、駒木小児科クリニック

(個人会員を除く、敬称略・順不同)



くじゅう地区管理運営協議会(くじゅうファンクラブ)

【事務局】九重町役場商工観光・自然環境課

【事務所】長者原ビジターセンター

【所在地】〒879-4911

大分県玖珠郡九重町大字田野 255-33

【電話】0973-79-2154

【ホームページ】<http://kujufanclub.com/>

【Facebook ページ】<http://www.facebook.com/choujabaruvisitor/>

長者原ビジターセンター

【住所・電話】上記に同じ

【開館時間】9:00～16:00 (5～10月は9:00～17:00)

【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)のみ

【入館料】無料

発行 / 令和5年3月31日